

りす組さくら（2歳児）年間指導計画

2025年度

時期→		I期（4月～5月上旬）	II期（5月中旬～7月）	III期（9月～10月上旬）	IV期（10月中旬～12月）	V期（1月～3月）
子どもの姿		・道化したことに喜びを感じ、新しい保育室や玩具に興味を示す一方で、新しい環境に不安や戸惑いも感じている様子が見られる。それ自身の思いをもちながら進級している。 ・気持ちのよいところとなる保育者に思いを受け止められ、保育者と一緒に身近にある遊びを楽しむ。 ・保育者に自分の思いを表情や仕草、簡単な言葉で表す。保育者と信頼関係が築けてくると、したくことや気付いたことなどを積極的に伝えようとなるようになってくる。 ・気持ちが安定してくると、友達にも目が向くようになり、名前を呼んだり、聞かわうとしたりする。 ・満3歳児クラスの子ども等、新入園児の子どもの存在に戸惑いを感じたり、近い場で遊ぶことを楽しんだりと、新たな人への関わり方も個人差がある。	・満3歳児クラスの子どもとも温まりながら遊ぶようになり、満3歳児の子どもや保育者にも興味をもつようになる。 ・友達と関わりが増えるにつれて、物の取り合いなどトラブルも見られるようになってくる。 ・水遊びや泥遊び等、夏ならではの遊びを積極的に楽しむ。ただし、濡れたり汚れたりすることに抵抗があったり、水に対する怖さを感じたりする子どももいる。 ・荷物の片付け等、園生活での身の回りのすることが分かり、保育者の誘いかけでやってみようとするようになってくる。 ・かいた物やつくった物を身近な物に見立てたり、家庭や園生活で経験したことを再現したりして遊ぶ。	・園内行事に参加することが増え、他の学年のしていることにも興味をもつようになり、自分もやってみようとする姿が増えてくる。 ・自分なりに面白く感じたことを繰り返し楽しむ中で、道具や方法を変えてみるなど、自分なりに少し変化をさせるようになってくる。 ・友達がしていることに興味をもって数人で寄り集まって遊ぶようになってくる中で、たまたま動きや声がそううとも増えること、それを喜んで何度も楽しむ。 ・名前を呼び合ったり、歌ったりするなど、クラスのみんなと過ごす楽しさを感じ始めてくる。 ・教育実習生と一緒に遊ぶことを喜び子どもが多く、自分の遊びに誘い込んだり、名前を呼んだりして、自分から関わろうとする子どもも多い。 ・園内行事に参加することが増え、他の学年のしていることにも興味をもつようになり、自分もやってみようとする姿が増えてくる。 ・自分なりに面白く感じたことを繰り返し楽しむ中で、道具ややり方を変えてみるなど、自分なりに少し変化をさせるようになってくる。 ・友達がしていることに興味をもって数人で寄り集まって遊ぶようになってくる中で、保育者や友達がいることを真似て同じようことをすることを楽しむ。 ・名前を呼び合ったり、歌ったりするなど、クラスのみんなと過ごす楽しさを感じ始めてくる。 ・教育実習生と一緒に遊ぶことを喜び子どもが多く、自分の遊びに誘い込んだり、名前を呼んだりして、自分から関わろうとする子ども多い。	・身の回りのことが少しずつ習慣になって、自分でしようとするようになり、自分でできたことを喜び姿が見られる。 ・異年齢との関わりにも興味をもち、真似てみたり、簡単なやりとりを喜んでたりする。 ・いろいろな素材を使って、切ったり貼ったりして、でき形を見立てて楽しむ。 ・保育者や友達がいることや遊びに、自分なりに関わったり、言葉や動作で簡単なやりとりを楽しんだりする。 ・遊具に登ったり、滑り台を滑ったり、コンビカーをこいだりするなど、運動用具を使った遊びに意欲的に取り組むようになる。 ・秋の自然物に触れたり、それらを使って遊んだりすることを楽しむ。 ・思いがぶつかり合うトラブルが増えるなど。	・手を洗う、食器を片付ける等、毎日している身の回りのことが身につき、保育者に促されたり、自分で気付いたりして、自分でできるようになる。 ・保育者と一緒に、簡単な見立て遊びやふり遊び、簡単なルールのある遊びを楽しめるようになる。 ・友達と関わることで増え、保育者がいなくても、2～3人の子どもだけで短い時間遊ぶことを楽しむようになってくる。 ・散歩で会出人に興味をもって見たり、話しかけたりする子どもが増えてくる。 ・言葉数が増え、要求や欲求を言葉で伝えられるようになる。 ・走ったり、登ったりと、いろいろな動きができるようになり、自由に体を動かせる喜びがふくらむ。
ねらい	教育・保育	自分から ○新しい環境の中でも、したい遊びや好きな遊びを見つけていく。	○生活習慣や片付け等、簡単な身の回りのことをしようとする。 ○自分からしたい遊びを見つけて遊ぶ。	○クラスだけでなく、園内の環境や出来事に興味をもち、保育者と一緒に関わろうとする。 ○体を動かすことを楽しみ、走る、跳ぶ、バランスをとるなど、様々な動きをする。	○順番などの簡単なきまりやルールを知って動かうとする。 ○園庭や遊具、自然物などを使って自分から遊ぶことを楽しむ。	○自分でできることを進んで行い、意欲的に生活や遊びに関わる。 ○したい遊びにじっくりと取り組み、「楽しかった」「できた」という充実感を味わう。
		創造する ○新しい環境で遊びながら、何度も繰り返し試してみる。 ○繰り返し遊ぶ中で、不思議さや面白さに気付く。	○虫や草花等の身近な自然に興味関心をもち、保育者と一緒に捕ったり、集めたりする。 ○保育者と一緒に「見立て」たり「ふり」をしたりと、想像の世界を楽しむ。	○遊びの中で出会った偶発の出来事や現象に面白さを感じ、繰り返し楽しむ。 ○絵本や紙芝居を楽しむ、簡単な言葉を繰り返し読んだり模倣したりして遊ぶ。	○自分から新しいアイデアや方法を思いつき、試そうとする。 ○自分がやりたいことを自分が思いついた方法でやってみようとする。	○身近にある遊具や道具を組み合わせながら、何度も試しながら工夫して遊ぶ。 ○色の違い、多い少ないなどの大まかな量、やわらかい固い等の素材の性質を理解して、選んだり使ったりする。
		人とともに ○担任保育者に親しみ、信頼を寄せる。 ○クラスの友達に慣れ、安心して関わるようになる。	○満3歳児クラスの担任保育者や子どもにも興味をもって関わろうとする。	○保育者や友達と動きや声で気持ちが通じ合うことを楽しむ。 ○友達と言葉を交わしたり、簡単なやりとりをして遊ぶことを楽しむ。	○保育者や友達に親しみ、自分なりに関わりながら同じ場で遊ぶことを楽しむ。 ○友達と言葉を交わしたり、簡単なやりとりをして遊ぶことを楽しむ。	○友達と同じことをしたり、簡単なイメージをもって遊ぶことを楽しむ。 ○言葉や表情、行動で自分の気持ちを表現し、伝わる喜びを味わう。
内容		健康 ・新しい環境に慣れ、安心して食事をしたり、眠ったりする。 ①新しいワラスの生活の場所や生活の仕方が分かる。 ②	・保育者と一緒に着替えや荷物を片付けながら、自分でできる部分をしてみようとする。 ①保育者から手伝ってもらって、着替えたり、トイレ（便器）で排泄しようとしたりする。 ②汚れたら着替える、食事前後に手や口を洗うなど、保育者と一緒に身の回りを清潔にしようとする。 ③	・簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ①秋を感じながら戸外で伸び伸びと体を動かして遊ぶ楽しさや心地よさを感じる。 ②運動会に向けて、走る、跳ぶ、登る、下りる、バランスをとるなどの様々な動きをしてみようとする。 ③	・身の回りのことを自分でしようとして、できた喜びを感じる。 ①生理的欲求が満たされる中で、健康な生活のリズムが身に付く。 ②戸外での遊びの楽しさを十分に感じ、進んで戸外へ出ようとする。 ③	・着替えや排泄、持ち物の始末等、身の回りのことを自分でする。 ①園生活のおおまかな流れが分かり、意欲的に生活する。 ②大きくなったことを喜び、進級に期待をもつ。 ③
		人間関係 ・新しい担任に思いを受け止められ、一緒に遊びながら楽しさを共有したりする中で、保育者に信頼を寄せる。 ・クラスの友達と一緒に安心して過ごす。 ④	・満3歳児クラスの保育者や子どももしていることに興味をもち、同じことをやってみようとする。 ④ ・クラスの子どもにも興味をもち、自分から関わろうとする。 ⑤	・行事などで出会う年中や年長の子どもたちがしていることに興味をもって見たり、自分もやってみようとしたりする。 ④ ・友達と同じことをしたり、動きや声がそうすることで面白さや気持ちの通じ合いを感じる。 ⑤ ・教育実習生と一緒に遊び、親しみを感じる。 ⑥	・自分のしたいことをもち、それを十分に発揮する中で、ぶつかり合いも経験する。 ④ ・保育者の声掛けで、してはいけないことに気づき、やめようとする。 ⑤ ・「順番を守る」などの簡単なきまりやルールを知り、保育者の声掛けで守る。 ⑥	・見立て遊びやふり遊びを友達と場を共有して楽しむ。 ④ ・遊びかけられて逃げたり、友達や先生を追いかけたり、かくれんぼをしたりと、保育者や友達と一緒に身体を使ったやりとり遊びを楽しむ。 ⑤ ・自分の物と他者の物の区別がつき、一緒に使う物は順番や交替などが分かり、守ろうとする。 ⑥
		環境 ・新しい環境に慣れ、したい遊びを見つけて遊ぶ。 ⑤ ・遊び方が分かりやすい身近な遊具や玩具で遊ぶ。 ⑥ ・戸外遊び等を通して、虫や草花等身近な春の自然に触れたり、暖かな春の空気を感じたりしながら遊ぶ。 ⑦	・水や泥などを使って、夏ならではの開放的な遊びを感覚豊かに楽しむ。 ④ ・身近にあるいろいろな道具を使って遊び、道具によってできることが違いうことに気付く。 ⑦ ・操作することによって形が変わったり流れたりする面白さを感じ、実際に触れて遊ぶことで変化することに気付く。 ⑧ ・身近な生き物に興味をもち、見たり触れたり、保育者と一緒に捕ったりする。 ⑨	・興味を惹かれることや場所に、保育者や友達と一緒に出掛け、園内での行動範囲が広がる。 ⑦ ・遊びの中で出会った偶発の出来事や現象に面白さを感じ、繰り返し楽しむ。⑦ ・道具を使って試してみたりする。 ⑧ ・運動用具や道具などを使って、保育者と一緒に遊び場をつくる。 ⑨ ・様々な国の国旗を見、日本の国旗についても知る。 ⑩	・園内のいろいろな場所や、そこにある遊具や自然物が分かり、保育者や友達と遊んだり過ごしたりする。 ⑦ ・形や色、大きさ、量などを比べ、選んで組み合わせ、試して遊ぶ。 ⑧ ・自分がやりたいことを実現するために、必要な道具を使ったり、用具を組み替えたりする。 ⑨ ・心地よい気候の中で、園外の散歩に出掛け、自然や人々の生活、行事などに興味をもつ。 ⑩	・いろいろな素材や用具を使って、自分のイメージを形にする楽しさを知り、かいたりつくったりすることを楽しむ。 ⑦ ・保育室での物の配置や片付けの場所が分かり、保育者と一緒に環境を整える。 ⑧ ・3歳児クラスの保育室で、興味のある物を見つけて遊ぶ。 ⑨ ・水や雪等、冬の自然に興味をもち、見たり触れたり体で感じたりする。 ⑩
		言葉 ・担任保育者からの挨拶や声掛けに応えたり、簡単な言葉を交わしたりする。 ⑧ ・担任保育者との少人数での関わりの中で、好きな絵本を楽しむ。 ⑨	・保育者や友達の言葉に興味・関心をもつ。また、自分でも話そうとする。 ⑩ ・繰り返し簡単なストーリーのある絵本を楽しむ、リズムある言葉や動きを真似して繰り返す。 ⑪	・自分なりにしたいことや、嫌なことなど、簡単な気持ちを言葉で表そうとする。 ⑪ ・保育者の仲立ちにより、友達とも言葉でやりとりし、伝わる喜びを経験する。 ⑫	・他のクラスの保育者や職員（勤務系・事務員・給食調理員等）に挨拶をしたり、言葉を交わしたりする。 ⑪ ・保育者が用意したお店屋さんや家ごつこの環境で、想像を膨らませ簡単な見立てやふり遊びを楽しむ。 ⑫	・自分の経験したことや好きなことを、簡単な言葉で保育者や友達に伝えようとする。 ⑪ ・ごっこ遊びの中で、簡単な言葉をやりとりする。 ⑫
		表現 ・保育者の歌や手遊びを見たり聞いたりして楽しむ。 ⑬ ・保育室にある粘土や紙、砂等の身近な素材に触れて遊ぶ。 ⑭	・好きな歌を保育者と一緒に歌ったり、音楽に合わせて体を動かしたりする。 ⑫ ・戸外の水、土、砂、葉っぱ、光、音等にも触れて遊ぶ。 ⑬ ・「見立て遊び」や「ふり遊び」を、身体で存分に表現して楽しむ。 ⑭	・保育者や友達と一緒に、声を合わせて歌ったり、名前を呼び合ったり、手遊びをしたりする。 ⑬ ・園歌に親しみ、保育者や友達と歌うことを楽しむ。 ⑭	・季節の歌や、他のクラスが歌っている歌などに興味をもって、一緒に歌ったり、聞いたりすることを楽しむ。 ⑬ ・水性ペンやのりなどの道具や、いろいろな素材を使っていたりつくったりすることを楽しむ。 ⑭ ・生活や遊びの中で経験した出来事をイメージして、それを自分なりに表現する。 ⑮	・いろいろな歌に親しみ、友達や保育者と一緒に歌うことを楽しむ。 ⑬ ・言葉や表情、行動、制作等で自分の思いや気持ちを表現することを楽しみ、また友達の多様な表現にも気付く。 ⑭ ・つくった物を見立てたり、動物になって動いたりしながら、イメージを表現することを楽しむ。 ⑮
ねらい	養護	生命の保持 ○新しいクラスでの生活の仕方を、一緒にしながら丁寧に伝え、安心して身の回りのことに取り組めるようにする。	○衛生面や安全面に留意しながら、夏ならではの遊びを思う存分できるようにする。	○安全面に留意して、思いきり体を動かして遊べるように環境を整える。	○思いきり体を動かして遊んだり、園外散歩に出掛けたりできるように、安全面に留意して環境を整えたり、情報共有を行ったりする。	○清潔、換気、加温等に留意しながら、感染症予防に努め、健康に過ごせるようにする。
		情緒の安定 ○一人一人のいろいろな思いや、進級に伴う不安などに細やかに寄り添いながら、信頼関係を築けるようにする。	○保育者との信頼関係の中で、意欲的に遊べるように、丁寧に関わる。	○安心して思いを出せるように、一人一人の思いを丁寧に受け止める。	○一人一人に寄り添いながら、保育者との関係をもとに、安心して園内のいろいろな人に関わりを広げていけるようになる。	○一人一人の思いを受け止め、園生活の意欲を高めていけるように丁寧に関わる。
環境構成 ◇ 援助▲ ※ICT活用や地域との連携も		◇それぞれのシンボルマークや持ち物のイラストを貼っておくことで、自分の居場所や、自分の持ち物の置き場が分かるようにする。 ① ▲生活の流れを一定にし、活動の切り替える場面ではそばについて寄り添ったりする。 ② ▲生活の場や生活の仕方を一つ一つ丁寧に伝える。 ③ ▲不安な気持ちや甘えたい気持ちを十分に受け止め、子どもの思いを言葉にしたり寄り添ったりして共感的に接する。 ④ ▲子どもが関わりを見守りながら、必要に応じて保育者が仲立ちし、子どもの出会いを支える。 ⑤ ◇遊びの分かちやすい物を目につきやすいように用意しておく。 ⑥ ▲身近にある春の自然物や生き物や子どもと一緒に見たり触れたりする。 ⑦ ▲子どもが身振りや言葉で関わろうとしている姿丁寧に受け止める。 ⑧ ◇絵本については、分かりやすい話や、親しみのある題材のものを用意しておく。 ⑨ ◇歌や手遊びについては、思わず模倣したくなるようなものやゆっくりとしたテンポのもの、親しみのある題材のものを取り入れ、言葉の繰り返しや動きの面白さを感じられるようにする。 ⑩ ◇可塑性の高いものや変化の分かりやすい素材を用意する。 ⑪	◇身の回りのことに取り組みやすいように動線や場の広さに留意する。 ①② ▲保育者が意欲的に体を動かして遊んだり、過ごしようとする気候や風などの戸外の環境について話をしたりする。 ③ ▲一人一人の排泄の時間を把握し、子どもにとって無理のないように進めいく。 ④ ▲着替えや手洗いや、一人一人の姿に合わせてそばで声を掛けたり手伝ったりしながら、綺麗な心地よさを感じられるようにする。 ⑤ ▲保育者が満3歳児クラスの保育者や子どもと積極的に関わりながら遊び、興味や広がりがきっかけとなるようにする。 ⑥ ▲それぞれの思いに寄り添ったり代弁したりすることで仲立ちとなり、お互いの気持ちを知ることができようとする。 ⑦ ◇子どもの興味・関心に合わせて用具や素材を多様に用意し、用途別に分けやすく分類しておく。 ⑧ ◇変化の分かりやすい遊びを用意するとともに、繰り返し遊べる時間と場を確保する。 ⑨⑩ ▲保育者と一緒に生き物を見つけたり、活動に取り組んだりすることで興味をもてるようにする。 ⑪ ◇子どもが表現しようとする姿を肯定的に受け止めたり、一人一人がゆったりと向き合い、応答的に関わったりする。 ⑫ ◇実物に触れたり見たりする体験を大切にしながらも、絵本や、セタと絡めた映像をスクリーンに映し、興味や広がりがあるようにする。 ⑬ ▲保育者が意欲的に自然物に触れたり、遊びに取り入れたたりする。 ⑭ ◇イメージが固定されるものではなく、自由に見立てられる素材や、様々な色や形の物を用意しておく。 ⑮	▲身の回りのことを自分でしようという、方法を具体的に伝えながら助ます。 ① ▲保育者が意欲的に体を動かして遊んだり、過ごしようとする気候や風などの戸外の環境について話をしたりする。 ② ◇多様な運動用具や遊具を身近に用意したり、安全に楽しめるような場の設定をしたりすることで、いろいろな動きを活動的に楽しめるようにする。 ③④ ◇運動会などの園内行事に向けての遊びや活動などで、他の学年がしている様子に興味をもてるように、そばで見る機会をつくらたり簡単に真似て遊べる環境を用意したりする。 ⑤ ◇友達の姿が境界に入ること興味をもって関わろうとするきっかけとなるように、遊びの場の距離や配置工夫する。 ⑥ ▲保育者が仲立ちやなって一緒に遊んだり、思いを言語化したりすることで、友達との関わりが心地よいものになるようにする。 ⑦ ▲一緒に遊んだり生活したりする中で、保育者と教育実習生が友好的な関わりをもつことで、子どもが教育実習生に親しみをもてるようになる。 ⑧ ▲興味を惹かれる出来事に共感し、保育者と一緒に楽しむことで子どもがしたいことや思いを出しながら遊ぶ面白さを感じられるようにする。 ⑨ ◇いろいろな用途で使える道具を十分な数用意しておくことで、繰り返し試すことができるようにする。 ⑩ ▲保育者も一緒に遊びながら、子どもが楽しんでいることに共感しつつ、遊びがさらに楽しくなるような方法や物を提案する。 ⑪ ◇運動会に向けて年長児がつくった国旗について知らせたり目録の高さに掲示したりする。 ⑫ ▲一人一人の表現を丁寧に受け止めながら、必要に応じて言葉を添えたり気持ちの代弁をしたりする。 ⑬ ◇子どもたちが親しみをもてる、繰り返し歌いたくなるような歌を取り入れることで、声が揃っていき楽しさがより味わえるようになる。 ⑭ ▲いろいろな遊びや活動の中で、保育者も一緒に声をしながら楽しさを共有する。 ⑮	▲園でに合わせて細やかに援助することで、自分でやりたい気持ちを大切に、自信をもてるようにする。 ① ▲「たのびで遊んで楽しかったね」「いい思い出ができたね」「おなかがいっぱい」などを感じたことを言葉にして伝えることで、生活のリズムを感じられるようにする。 ② ◇戸外の全身を使った感覚遊びが安全に楽しめるように、運動用具や遊具との距離や配置を工夫する。 ③ ▲一人一人のしたいことや思いを肯定的に受け止めながら、友達とのぶつかり合いが生じた際には気持ちを代弁したり相手に思いを伝えられるように仲立ちしたりする。 ④ ▲子どもの言動を注意深く見守りながら、安全に過ごせるように声を掛けたともに、走る、跳ぶ等の欲求を満たせるように遊びの環境を整えたりする。 ⑤ ▲保育者と一緒に遊ぶ中で、順番や文書等の約束を守ることで、遊びがより楽しくなるように関わる。 ⑥ ▲庭や園の周りに外の環境（園庭や遊具等）のありとも興味を広げ、様々な遊びや物と出会えるように、子どもの興味やしたい遊びを丁寧に捉えて誘ったり一緒にに行ったりする。 ⑦ ◇大きい声で、多い少ない、等が分かりやすいように、それぞれの形や色ごとに分類したり同じ大きさのカゴや容器に入れておいたりする。 ⑧ ◇子ども自身で扱いやすい道具や用具を十分な種類と数、用意しておく。 ⑨ ◇秋の自然に触れられるような場所に散歩に出掛けたり、紅葉等の変化を感じられるように同じ道を何度も通ったりする。 ⑩ ▲保育者が友好的に園内の職員と関わったり、それぞれの役割（給食をつくらっている、園内を整備している等）について知らせたりする。 ⑪ ◇布、積み木など、いろいろな物に見立てて場をつくらたり、身につけたりできるような物を多様に用意しておく。 ⑫ ▲保育者も歌いながら踊ったり、友達と手を繋いだりし、全身で表現する楽しさを感じられるようにする。 ⑬ ◇子どもが安全に使える道具や場所を用意する。落ち着いて遊べる場所に制作コーナーをつくらたり、初めて使う道具を使う時にはそばで見守ったりして、安全に集中して取り組めるようにする。 ⑭ ▲豊富な経験の中で、自然物に触れたり、におい、音、色、触感等を保育者と一緒に感じたりすることで想像力が広がるようにするとともに、感じたことを表現する言葉を促す。 ⑮	▲自分でできることに喜びが感じられるように、身の回りのことをする時間を十分に確保しながらゆっくりと見守り、個々に合わせて細やかに援助する。 ① ▲子どもが自分からしようとする姿を十分に認めたり、活動に気持ちを向けられるように待ったり誘いかけたりしながら意欲を育む。 ② ▲できるようなことや成長したことを言葉にして伝えたり一緒に喜んでることで、自信をもてるようになる。 ③ ◇お店屋さんや医者さんなどのイメージが広がる道具を用意したり、人形やぬいぐるみのお世話をする空間をつくらたりし、見立て遊びやふり遊びが存分に楽しめるようにする。 ④ ◇安全に遊べる時間と場を保障し、満足できるまで取り組めるようにすることで、集団遊びの楽しさを存分に感じられるようにする。 ⑤ ▲子ども同士で「次貸してね」「一つちょうだい」などのやりとりをする姿を見守りながら、必要に応じて、◇おしゃべりのはち△△くんね」「次貸してもらおう？」など分かりやすく言葉を添える。 ⑥ ◇子どもの扱いやすい大きさの容器に水をはっておいたり、冷たさ、温かさをより感じられるように湯を用意したりする。 ⑦ ▲運ぶ、並べる、布などをたたむなどの簡単な役割を楽しみながら環境を整えられるように関わったり、子どもの工夫や頑張りを認めながら保育者も一緒に片付けたりすることで、意欲に繋げていく。 ⑧ ▲3歳児クラスの保育室で、満3歳児クラスにはない玩具や遊具と一緒に使ってみたり、制服やクレヨンなど3歳児クラスで新たに増える個人の持ち物を知らせたりする。 ⑨ ◇気温を見ながらいろいろな容器に水をはっておいたり、冷たさ、温かさをより感じられるように湯を用意したりする。 ⑩ ▲目録を合わせてゆったりと聞く姿勢をつくらたり、共感的にうなずいたりして、子どもが伝える楽しさを感じられるようにする。 ⑪ ▲子ども同士のやりとりを大切にしながら、必要に応じて言葉を添えたり、気持ちを言語化したりする。 ⑫ ◇歌いながら踊ったり、友達と手を繋いだりし、全身で表現する楽しさを感じられるようにする。 ⑬ ▲一人一人の思いや表現を丁寧に受け止め、認めることで、保育者を仲立ちにして友達の表現に気付くきっかけづくりをするときに、それぞれが多様を受け入れられることを感じられるようにする。 ⑭ ▲子どもの発想で遊びだす様子を捉え、一緒に遊びながら面白さに共感したり、工夫していることを認めたりする。 ⑮
家庭との連携		▲楽しく、緩やかな雰囲気の中で食事を楽しめるように、ゆったりとした雰囲気と関わる。 ▲一人一人の子どもの姿に合わせて食べられる量を配慮したり丁寧に援助したりする。 ◇食事の場所を決めておくことで、自分の居場所が分かり、見通しをもち安心して生活できるようにする。	▲メニューや食材について話題にすることで食べる興味をもてるようにする。また、食材の色や食感、香りなどを多面的に伝えることで興味をもつきっかけとなるようにする。	▲必要に応じて、食事のマナーについても伝えていくようにする。	▲友達関係の深まりにより、食事の時間がより楽しくなるようにするとともに、保育者や友達に興味しうに食べるものに興味をもって食べてみようとする姿を大いに認め、いろいろな料理を食べてみようとするよう援助する。	▲友達と簡単な言葉のやりとりをしたり楽しそうに食事をしたりする姿を肯定的に捉え、保育者も共感的に関わる。
		▲初めての避難・消火訓練では、事前に保育者のそばに集まり、ベルが鳴ることを知らせたり、安心できるように声を掛けたりすることで、不必要に泣いたりせずに落ち着いて参加できるようにする。 ◇地震時の身の守り方について話をしたり、実際に体験したりして、一人一人の姿に合わせて取り組めるようにする。 ◇保健調査票や家庭調査票から既往歴やアレルギー、熱性けいれんの有無を確認しておき、園全体で子どもの情報を共有し対応できるようにする。	▲水遊びでは、安全面や衛生面、体調の変化などに留意しながら、心地よく思う存分楽しめるようにする。 ◇水筒を活動場所のそばに置いておくとともに、定期的に水分補給を促す。 ◇熱中症対策として、戸外遊びの時間を調節し、健康に過ごせるようにする。 ◇暑い日は遊具を拭いたり、床にツツやタタミを敷いたりして安全に過ごせるようにする。 ◇暑くなる日も増えてくるので、状況に合わせてこまめに水分や休息がとれるよう促したり、衣服の調節をよりししていく。	▲一人一人の動きの仕方や遊び方などを把握し、必要に応じてそばで見守ったりさりげなく手を添えたりし安全にできるようにする。 ◇寒い床にはマットや人工芝などを敷いたり、運動遊具や柱との距離を十分に取る場所に体を動かす遊びを設定したりする。 ◇暑い日は給水・水分補給の工夫を続ける。行う。 ▲暑い日の寒暖差による体調の変化に留意し、家庭での様子を開くこと連絡を密にし、体調の変化を見逃さないようにする。	▲園内の様々な場所に危険がない事前に確認し、使わない遊具や用具は囲いをしたり片付けたりして環境を整える。 ◇散歩に行く前に下見へ行き、安全確認をした木の実の落ちている場所や紅葉の具合を把握したりしておく。 ▲避難訓練と連携し、手洗いの仕方やタイミングを視覚的に示したり、感染予防の手洗いの大切さの話をしたりし、手洗いを習慣づけるようにする。	◇防寒具の扱いや置き場所についてわかりやすく伝えたり、自分でできるように掛けひもを付けてもらったりする。 ▲避難訓練と連携をとり、感染症の流行状況を把握し、体調の変化を見逃さないよう健康観察をまめに行う。
		満3歳児クラスとの連携	満3歳児が入園することに合わせて、2歳児クラス（さくら）、満3歳児クラス（クローバー）を都度再編していく。入園したての子どもたちは、月齢が高くとも、新しい環境への不安や期待があることを踏まえて保育する。また、入園児を新たな迎え入れる側の子どもたちには、期待をもって迎え入れられるように準備をする。			
		慣らし保育児	慣らし保育開始時は、該当期の姿だけでⅠ期の子どもの姿やねらいをもとに意識する。一人一人の個人差が大きいことを考慮し、慣らし保育開始月～入園月（誕生月）までは2歳児と同様に個人月案を作成する。その後も必要に応じて作成し、一人一人の育ちを支えていく。 入園が遅い家庭に対しては、月に一回のつながりを感じられるように、月に一回の親子登園日を設けたりリカレントを配布するなど配慮する。			
行事・地域との連携		・満3歳児クラスの入園を含む新しい環境や生活の流れについて丁寧に伝えたり、家庭での様子、保護者の思いを積極的に把握し、思いに寄り添いながら様子を伝え合ったりすることで、安心して子どもを預けられるようにする。 ・園での子どもの様子や楽しんでいることなどを肯定的に伝え、信頼関係を築いていく。	・関わり方や生活面での援助の仕方等について、園での様子を必要に応じて伝えていく。 ・子ども自身で着脱しやすい衣服や靴を用意してもらうようにしたり、着替えの援助のポイントを伝えたりし、子どもが自分の身の回りのことをしようとする姿を支えていくようにする。 ・災害時保護者引き取り訓練では、実際に家から園まで歩いていくことで安全な経路や時間の把握ができるように伝える。	・初めての運動会の参加に向けて、見通しをもてるように内容をクラスだよりで伝えたり、普段の遊びや活動の中で楽しんでいることを具体的に話したりする。	・身の回りのことについて、自分でしようとする姿やできるようになったことを具体的に伝え、成長を喜んでたり、子どもの意欲を育てていけるように関わり方を伝えたりする。 ・子ども同士のぶつかり合いについて、保護者の思いも丁寧に聞き取りながら、ぶつかり合いが生じた具体的な理由や、それが成長とにも生じる大切な過程であることを伝える。	・進級にあたって、子どもの気持ちの揺れが予想されることや、その理由、どのように支えていくかという見通しを伝えておく。そのことを通して、環境の変化に伴う子どもたちの不安などを共に支えていくようにする。
		・感染症流行の状況を園でも把握し、保健だより等で感染症の種類や予防の仕方を知らせ、家庭でも気を付けてもらい、子どもが健康に過ごせるよう連携していく。 ・集団生活の中で子どもが経験したことや、一人一人の姿や成長の様子、成長を喜び合う。 ・保育参観や懇談会、クラスだよりを通して、クラスについて大切にしたいことや、子どもが楽しんでいること等を保護者にも共有し、一年間の関わりをもつとともに、子どもの成長をより実感できるようにする。 ・子どもが楽しんでいることや身の回りのことを自分でできるようになることを、家庭に異なる園での姿を共有できるようにする。				
		入園式/始まりの会/個人懇談/クラス懇談/こどもの日の会（※子どもの姿に合わせて、全体ではなくクラスでの会とする）/避難訓練/身体測定	参観/クラス懇談会/水遊び/七夕の会（※子どもの姿に合わせて、全体ではなくクラスでの会とする）/個人懇談/終わりの会/おはなしの会/避難訓練/身体測定	教育実習（4週間）/ウインドアンサンブル演奏会/運動会/避難訓練/身体測定/内科検診/尿検査	親子遠足/参観/クラス懇談会/創立記念日/個人懇談/お楽しみ会/終わりの会/おはなしの会/避難訓練/身体測定	始まりの会/芸術鑑賞会/豆まきの会/参観/クラス懇談会/お別れ会/おはなしの会/避難訓練/身体測定